

大川リビルディング事業「リバーサイド観光WG」(第1回)

日時：令和6年5月22日(水)

14時30分～

場所：大川市役所(第3委員会室)

1. 開 会

2. 副市長あいさつ (大川リビルディング事業概要説明)

資料1

3. WGメンバー自己紹介(「私と川」を含めてお願いします) 名簿参照

4. 議 事

(1) リバーサイド観光WGの目的及び令和5年度実績報告について

資料2

(2) リバーサイド観光のイメージについて

<動画視聴>

- ・かわまち大賞(先進地事例)
- ・愛知県岡崎市乙川
- ・バンクーバークリスマスキャロルシップパレード 等

5. ワークショップ

<テーマ> リバーサイド(筑後川及びその支流、有明海等)について

- ①ポジティブな面(好きなところ、場所、特徴・イメージ、楽しかった思い出)
- ②ネガティブな面(嫌いなところ、場所、特徴・イメージ、嫌な思い出)
- ③こういうことをすれば楽しい

<流れについて> WGのメンバー(進行以外)で①～③を同様に行う。

- ・5分間で付箋に記入してください。(いくつでも結構です。なるべく具体的に。)
- ・1人ずつ発表しながら、付箋を模造紙に貼ってください。(順番は進行が指定)

6. その他

「大川の駅」事業の効果を増幅させる大川リビルディング事業

①新たなマーケットへの船出

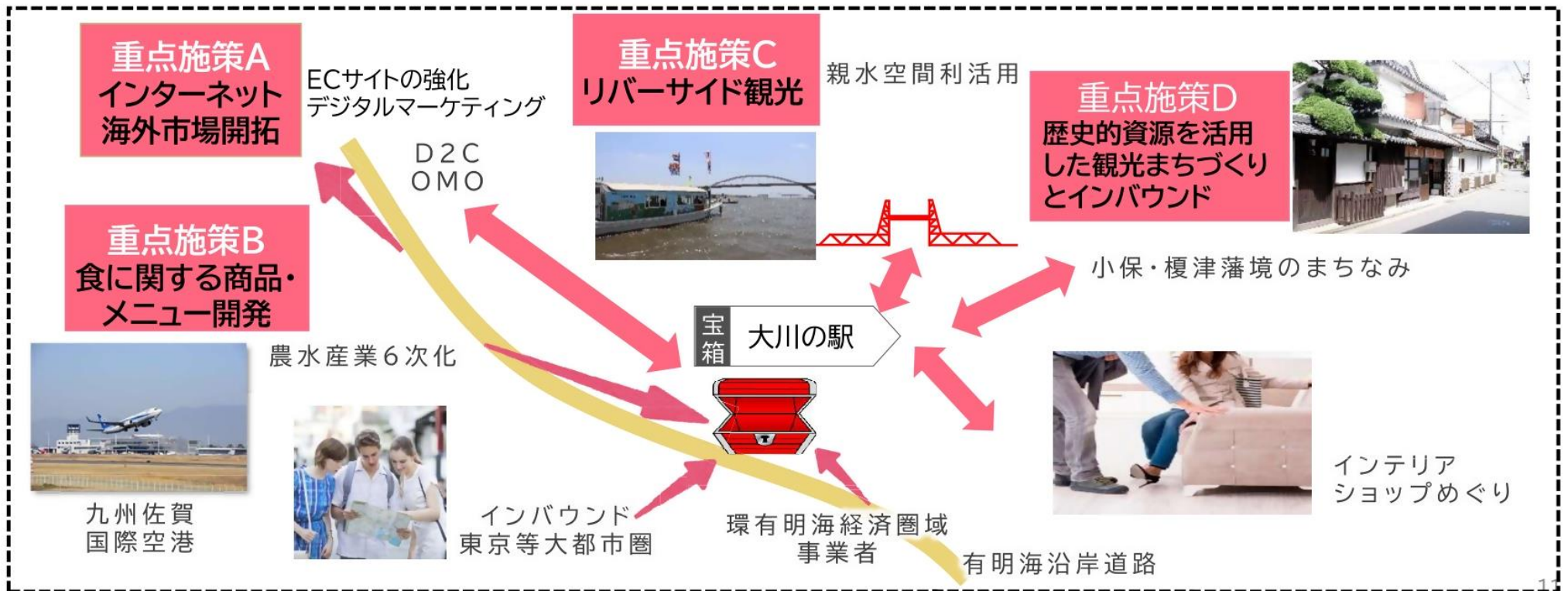
- EC、ふるさと納税
- 海外市場
- 観光インバウンド

②価値の発見と発信

- 地元では当たり前でも外から見ると価値のある地域資源の発掘と磨き上げ

③持続性と迅速性をもった組織構築

- 「稼ぐ力」のある組織



リバーサイド観光の目的

※リバーサイド～筑後川・支流・クリーク、有明海を含む

大川市は、筑後川の水運を生かしながら、中・上流域の豊富な木材を活用して興った木工業を基幹産業として発展してきました。

また、大川市は筑後川と有明海の豊かな恵みによってもたらされる水稻・いちご・海苔等の農水産業も盛んなまちです。

このように、筑後川は大川市の成り立ちや発展に欠かせない要素でありながら、観光資源として十分に活かされていないのが現状です。

私たちが、当たり前ものとして捉えているこの素晴らしい観光資源の魅力を再発見・再構築するための事業に取り組んでいきます。

リバーサイド観光WGが目指すもの

- ・WGのメンバーから様々なアイデアを集めること。
- ・アイデアの中から実際にやってみることをピックアップし、それをどうやって実行していくのか方法論を協議すること。

令和5年度実績報告について

川辺 de ルーチェ～筑後川スカイランタンフェスティバル～開催

- ・目的 筑後川昇開橋を中心とする川辺のエリアで、光と木のコラボレーションによるイベントを開催し、リバーサイド観光の活性化を図る。
- ・開催日時 令和6年1月27日(土) 15時～20時
- ・会場 筑後川昇開橋及びその周辺
- ・参加者 約3,000人 観光動態統計システムによる集計
- ・事前申込者 市内～23%、市外～77% (ランタン1個につき2人まで入場可能、500個)

<良かった点>

- ・筑後川昇開橋の観光資源としてのポテンシャルの高さを再認識できた。
- ・木のオブジェ、組立式茶室、若波酒造(日本酒)等大川市の特産品等をPRできた。

<主な反省点>

- ・取りかかりが遅く、実質市役所が企画運営した。(大川観光協会への委託事業として開催)市役所のみで運営することの限界を感じた。 広く意見・アイデアを募るべきであった。
- ・想定外の出来事に対する、参加者へのアフターフォローができなかった。